

『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

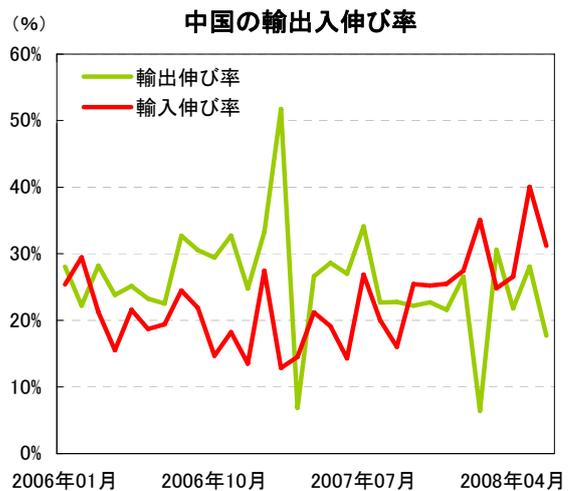
第11号(2008年7月23日)「中国市場動向2008年6月」



貿易黒字減少、政府の景気テコ入れに期待

中国統計局によると、今年上半期の輸出総額は前年同期比21.9%増の6,666億米ドル、伸び率は前年同期に比べて、5.7ポイント低下しました。逆に輸入は、同30.6%増で前年同期比12.4ポイント上昇しました。貿易黒字額は990.3億米ドルで、同11.8%減少しました。貿易黒字減について中国統計局は、景気引き締め策や人民元高、また外需低迷などを要因として上げています。

7月、同国の輸出産業の状況を把握するため、温家宝首相と李克強副首相、王岐山副首相は各地の経済の実情を視察しました。その結果、今後は引締め政策を維持しながら、景気にも配慮するといった姿勢をとっていくようです。



出所: CEIC, 2008年7月10日

貿易鈍化をきっかけに景気引き締め策緩和へ

市場では貿易の鈍化が経済成長に与える影響を考慮し、仮にインフレが沈静化するようなら、中央政府は下半期、景気引き締め策を緩和する可能性があるかと見ています。

大手外銀は「今回の貿易統計は、輸出分野に対する政府の懸念を増加させ、景気引き締め策の緩和の圧力が増した。」とコメントしています。

しかし、輸出の伸びが鈍化したとはいえ、17日に発表された上半期のGDP成長率は+10.4%と引き続き2ケタ台の成長率を維持しました。特に固定資産投資と個人消費は、それぞれ+26.3%、+21.4%となっており、内需が景気を支える構図となりました。

2008年1~6月中国の経済状況

	伸び率%	トレンド
【GDP】	10.4%	↓
【固定資産投資】	26.3%	→
【消費】 小売売上高	21.4%	↑
【貿易】 貿易収支	-11.8%	↓
【物価】 CPI	7.9%	↑

出所: 中国国家统计局, 2008年7月17日



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



外貨準備の約45%はホットマネー

上半期の貿易黒字は前年同期比では減少しましたが、ホットマネーの流入により人民元高が加速しています。今年1-5月の中国の外貨準備高は昨年同期比+18.7%、2,687億米ドル増加しました。このスピードで増加が続けば、上半期では3,000億米ドル以上の増加になると予想されています。右図のデータによれば、ホットマネーは、第1四半期に851億米ドル、第2四半期に434億米ドルと様々なルートで中国に流入し、今年の外貨準備高増加分の約45%にまで達しています。

人民元レート、初めて6.84元台に

それを受け、人民元の対ドルレートは基準値、終値とも初めて1米ドル=6.84元台に上昇しました。

2005年7月通貨バスケット制に移った後、人民元は対米ドルで累計約17%、対円で累計約13%と上昇しています。逆に対ユーロは累計約8%の人民元安となっています。

中国銀行は、人民元が年末には1米ドル=6.65元を突破し、通年で約10%の人民元高になると予想しており、輸出に対しマイナスの影響を与えると予想しております。

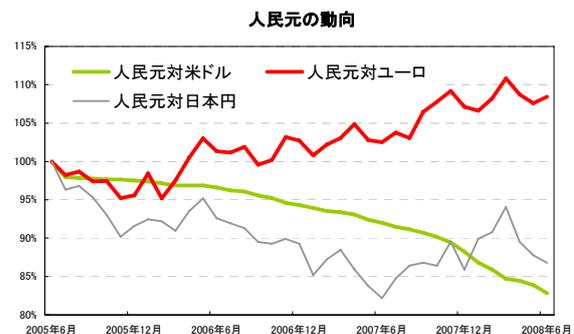
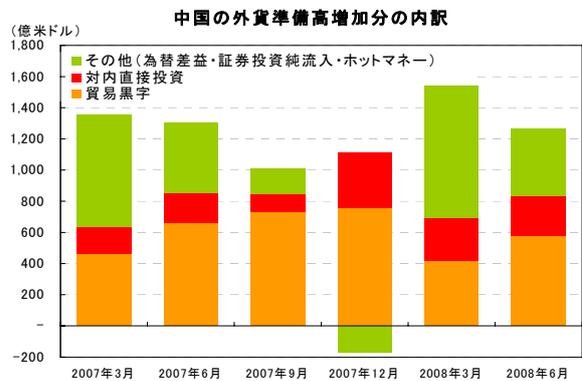
《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



《編集後記》先日、弊社の同僚が中国出張から戻り、北京オリンピックの記念品を持ち帰りました。もちろんパンダをモチーフにした大会のイメージキャラクターもあり。オリンピックで世界の注目がアジアに向けられることを願いつつ…。頑張れAsia!



(知恵越え悟る&見に行っちゃイナ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。